



主の聖名を讃美いたします。

みなさまお一人お一人のうえによりクリスマスの喜びがありますよう祈りつつ、和田先生のメッセージ、長崎教会の声、地区集会報告をお届けいたします。

拡大会長会開会礼拝メッセージ

10月17日八幡教会にて拡大会長会が行われ、14教会29名の出席がありました。協議の詳細は別紙報告書を御覧下さい。



聖書：使徒言行録2章46節～47節
 教会にとっての女性の会の働きは大きく感謝に絶えない。この会にとっても次代の宣教を考えることはむずかしい課題である。今日の聖書は、聖霊を受けた弟子たちの日々の礼拝の様子とその影響が書かれている。聖餐、愛餐を共に食し、賛美することで（…だから）「民衆全体から好意を寄せられた」。彼らはやがて「“霊”と知恵に満ちた評判の良い人」（同書6：3以下／青式文「教会役員就任式」

参照）を選び「神の言葉はますます広まり…信仰に入った」と記されていることは興味深い。私たちの身の回りの家族や友人、知人や施設などの方々に、証しとして映るような会とはどんな姿か。働きを顧み、悔い改め、初代教会の原点のみ言葉に聞きたいと願う。

長崎教会の声

10月26日長崎教会を訪問した際、「長崎教会は礼拝奉仕の方を求めています。また、長崎は平和を考えるにふさわしい場所です。キャンプや修養会に長崎教会を活用して下さい。」とお聞きし、より長崎教会の声を届けたく、長崎教会の池田照姉に原稿をお願いしました。

今、礼拝堂にアドベントクランツを飾りながらクリスマスになる事を、その年のことを思っています。四月から無牧になった長崎教会は九州の西にあり、信徒数も十名前後の小さなところですが、それでも、これまではどうにか牧師先生がいて毎週日曜日の礼拝にはみ言葉のとりつぎを必ず受けてきました。教会に牧師先生がおられなくなるということは毎週の説教も聞けなくなる！まずその事が私は一番心配になりました。そして月一回の聖餐式は受けられるようにしたい、信徒の中で四人が都合をつけ日曜日の当番を受け持ちました。九州からの牧師先生を月

一回はお迎えして聖餐式も受けられるようにお願いしました。それまでの与えられる教会での信仰生活は一変して、皆で働く励まし合う教会生活となりました。そのしばらくの間、私はどうしようという心配が強く、親しく信仰生活を支えていただいていた東京のむさしの教会の方々に色々泣き言を聞いていただきました。小さな教会では経済的に独立できないし、これからはこうして消えていく事もあるのだと思しながら、都会の大きな教会をうらやむ気持ちもありました。そのむさしの教会の方々から長崎へとたくさんの献金が送られました。それまでも相談する事で心が助けられたのに…長崎教会は神様に守られていると思えました。手探りで歩き始めた長崎教会は、一度も礼拝を休むこともなく、礼拝の前の聖書の輪読会も続けていく事ができました。全聖徒の礼拝には、長崎の教会とは何もご縁もなかった方からも遺産を長崎教会へと多額の献金も届けられました。一本目のローソクが灯るそのあかりを見つめながら、確かに教会は守られている、「神様は祈りの声を聞いて下さった」と、この年になってはじめて自分の身体の中に暖かく流れる信仰を感じています。長崎教会の為に色々な事で心を寄せていただいた皆様と新しい年を迎え、今一度イエス様の誕生をしっかりと感謝して心にお受けしたいと長崎の教会で思っています。



北九州地区婦人会の集い

12月2日(火)、小倉教会にて北九州地区婦人会の集いが行われ、門司、小倉、八幡、直方の4教会から20名が集いました。開会礼拝では、コリントの信徒への手紙1:12:12~27の御言葉のメッセージに耳を傾けました。歓談と愛餐の後は、手作りのクリスマスカードにメッセージとサインを記しました。このカードは遠方や、病院や施設に居られる姉妹に送ります。直接存じ上げない姉妹もおられますが、遠く離れた場所で、または病院のお部屋で、それぞれの場所で神の御子のご降誕を共に喜ぶことができますようにと祈りながらサインしました。



ご意見ご感想をお寄せ下さい(文責:岩切)